

## 議論の方向性①

- 持続可能なインフラマネジメントへの方向転換
- まずは道路・橋梁を中心に、持続可能な道路ネットワークのあり方について議論

### 論点の整理（案）

多数の橋梁をどのように維持管理・更新していくべきなのか。

- 1) 優先順位の考え方・指標(路線の重要性、交通量、健全性、迂回路の有無、橋の機能・・・)
  - ・ 橋梁の点検方法・維持レベル(コンクリート標準示方書記載の・・・)
  - ・ 国道156号のような、直列配置同時高齢化橋梁軍団にどう立ち向かうか。
- 2) 限られた道路事業予算をどのように配分していくのか。

# 優先順位の考え方・指標となりうる性能

設計年次と適用示方書  
設計荷重／耐震性能

生活重要施設アクセス  
緊急輸送道路  
病院・警察消防署・役所  
駅・学校など

河川改修、都市計画  
など他事業との  
整合性

橋の健全度・安全性  
点検結果判定 I～IV  
補修困難性(塩害/アルカリシロカ  
反応、洗掘)

路線・橋の重要性  
交通量(車両・歩行者  
自転車)／迂回路  
の有無

維持管理費用大  
跨線橋／跨道橋など

孤立リスク

津波／原子力  
災害から避難

景観・歴史的価値

快適性  
車道幅員／歩道の有無



# 令和の“公共インフラニューディール” 道路集中メンテナンス

## 1 事業期間 4年間 (R⑧~R⑪)

## 2 事業規模 総額15億円

- ・令和8年度当初予算において、主要県単道路改良事業等を一旦縮減
- ・縮減額を道路のメンテナンス集中期間の財源に振替え

## 3 事業内容

交通安全や交通円滑化に資する区画線整備等の道路維持修繕を強化

(1) 令和8年度： 5億円 従来分2.5億円に上乗せし、区画線を重点整備

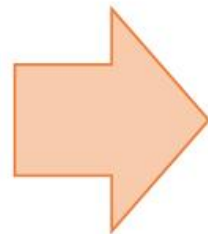
⇒ 延べ約1,000 kmの区画線※を引き直し ※道路延長換算では約400km分に相当

(2) 令和9年度~令和11年度：10億円

道路舗装補修を強化するとともに、区画線の施工も引き続き実施



施工前



施工後

## 議論の方向性②

- 方向転換には、「県民のインフラに対する理解と意識の醸成」が必要
- 「自らがインフラを守り、支える担い手であるという意識の醸成」について議論

### 論点の整理（案）

インフラの将来像の「自分事化」を推進するためには、どうすればよいのか。

- 1) インフラの重要性を県民に理解してもらう方法
- 2) 県民自らがインフラを守り、支える担い手であるという意識の醸成方法

# インフラの「自分事化」企画（例）

重要橋梁を通行止めにして、  
インフラの有難みを理解してもらう



橋のお医者さん体験(左官・防水)  
(日経コンストラクション(R5.2号))

シンポジウム



土木学会市民見学会(R7.11)

インフラツーリズム  
(まいまい京都 富山版)



土木学会市民見学会(R7.11)

エッセンシャルな仕事である  
ことを印象付ける写真展



ケンセツジョブフェス(R7.9)

小学生期からインフラに  
親んでもらうための取組



ケンセツジョブフェス(R7.9)

清掃活動などのボランティア  
活動の充実



富山大橋清掃ボランティア